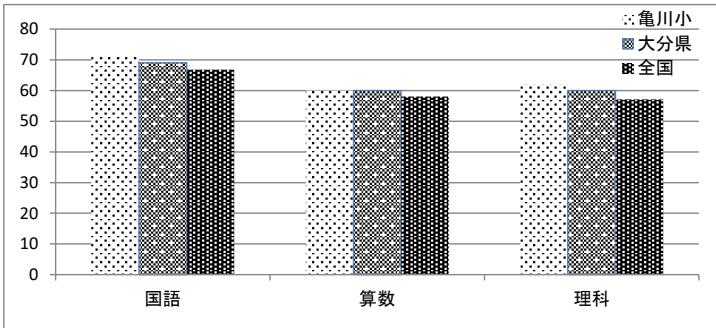


令和7年度 全国学力・学習状況調査結果(6年生)4月実施

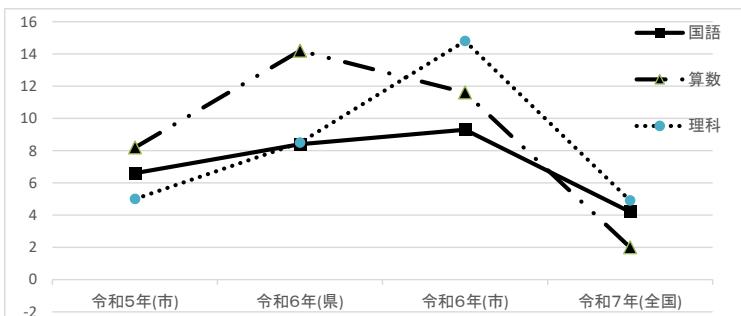
平均正答率	国語	算数	理科	
亀川小	71	60	62	
大分県	69	60	60	
全国	66.8	58	57.1	差の平均値
全国との差	4.2	2	4.9	3.7



《正答率の経年変化》…全国平均との差(同一児童)

亀川小	国語	算数	理科
令和5年(市)	6.6	8.2	5
令和6年(県)	8.4	14.2	8.5
令和6年(市)	9.3	11.6	14.8
令和7年(全国)	4.2	2	4.9

別府市学力調査(1月)4年生
大分県学力・状況調査 5年生
別府市学力調査(1月)5年生
全国学力状況調査(4月)6年生



3教科で、知識・技能、思考・判断・表現ともに全国平均正答率を上回った。

問題別正答率では、全国平均値を5ポイント以上、下回った内容もあった。

国語では、①「話し手の考え方と比較しながら自分の考え方をまとめることができる」は12.6ポイント、②「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができる」は9.3ポイント下回った。その理由として、児童の解答の傾向から①はインタビューの回答に対する発言の理由を選択する問題で、発言と理由の内容を結びつけていないこと。②は4つの資料をもとに話し合う場面で、発言や資料の一部分から判断していることが分かる。

算数は「伴って変わる2つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことができる」で、9.8ポイント下回った。ハンドソープが空になるまで何プッシュすればよいかを式や言葉で表す問題で、立式が間違っている、もしくは無回答が多い。

理科では、①「顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身についている」は17ポイント、②「水は温ると体積が増えるを根拠に、海面水位が上昇した理由を予想し、表現できる」は13.7ポイント下回った。①はピントを合わせる方法を選ぶ問題で、「レンズの倍率を変える」を選んだ割合が多い。②は海面上昇の原因を選ぶ問題で、「氷になると体積が増える」を選んだ割合が多い。

6年生の問題は、多く情報をもとに解答する内容となっている。一つひとつをしっかり読み、問題と関連付けて考えていく必要がある。上記の解答状況から、長い文章や資料を正しく読んだり、内容を関連付けたりすることで、学習した内容をより適切に活用できるのではないかと考えられる。今後は書かれている内容を正しく把握できているか、資料等とどのような関連があるのかを考える機会を授業の中で十分確保したり、確認したりしながら支援していく必要がある。